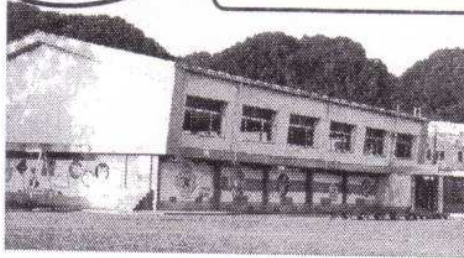


★12月9日の市議会  
温泉建設を決める

# 市民の命と安全無視の市長が強行

温泉建設より災害時の指定避難所の耐震化こそ、市が急がなければならない仕事。日本共産党議員団が市を追及

傍聴者120名が詰めかける中



増戸小学校の体育館

あきる野市の十八の学校の体育館は全部、市の指定する災害時の避難所となつ

## 災害避難所の学校体育館の耐震化はたった一校だけ

市長は二四億九千万円も使つて温泉建設をすすめながら、一方でまた来年四月からの国民健康保険税の引き上げを提案しました。合併後、実に五回目の値上げになります。さらに市長は

## 市長

### 温泉建設すすめながら、予算編成で市民への施策九億円削れと職員に通達

十二月九日、市議会では百二十名の傍聴者が詰めかける中、温泉建設問題だけで五時間をかけて質疑討論が行なわれ採決されました。採決の結果は、賛成十六、反対六、棄権一で温泉建設を決めました。審議を通じてあきる野市政の問題点が浮かびあがりました。

「市民の生命にかかわる災害避難所の耐震化を優先

### 日本共産党市議団の追及に市長しどろもどろ

「市長は二四億九千万円も使つて温泉建設をすすめながら、一方でまた来年四月からの国民健康保険税の引き上げを提案しました。合併後、実に五回目の値上げになります。さらに市長は

## 来年こそ大躍進の年に！

### 日本共産党後援会地域で活発に

来年の奮闘を誓って賑やかに……。今年には選挙の多い年でした。各地の後援会が多様な活動をして躍進に貢献しました。年末の活動の中で、「餅つき会」が各地で催され、舌鼓を打ち、年の瀬を賑やかに楽しんでいきます。参加者は、今年の健闘をたたえながらも、来年へ向けての決意を新たにしています。



するの、それとも温泉建設が優先なのか、市長はハッキリと答弁して欲しい」という鋭い質問に対し、市長はしどろもどろになり、合併時の地域総合整備費の期限が来年までなのでと繰り返して、なにがなんでも温泉建設の推進を強調するばかりでした。

## 楽しい子育ての母の楽み

先日、「ピッピー」では講師を呼んでベビーマッサージをしました。「ベビー」と言っても、0歳～4才のこどもたち。ゆったり寝転ぶ子、歩きまわる子、ねてしまう子、見学を決めこむ子とさまざまに、それぞれのしみました。

ちいさいこどもへのマッサージなので、ごくやさしくなでさするだけです。お互いとでもいいきもち。お母さんにきもちもやわらかくなってにこにこ、お母さんの手と笑顔にこどももにこにこ、ベビーボンディング（絆づくり）という別名に納得のあたたかな時間でした。

雑誌や本でも紹介されています（図書館もアリ）ので、いそがしいこの時期、10分間のベビーマッサージでリラックスしてみても？

※ピッピーでのマッサージの予定は未定です。

たばた あずみ



東地区後援会の「餅つき会」

この秋生まれて初めて海外旅行をした。元勤務していた横河電機の、当時一緒に労働組合の執行部をした仲間と中国を訪れた。旅行前から二つのことと興味があった。社会主義国「中国」がどんな国か。もう一つは、五十年前に少しかじった中国語が本国で通用するか。上海、杭州、蘇州、を旅行した。建設中の工場が延々と並び、中国の経済発展の凄さを目の当たりにした。識者が指摘している通り日本を追い抜くことは間違いないと実感した。▼横河電機と中国との合併会社が蘇州にある。訪問したその会社の中国人が歓迎集会を開いてくれた。私は思い切つて五十年前に習った下手な中国語で「中華人民共和国の皆さんと中国人民の友好万歳」と三千人の中国人を前に話した。万来の拍手を浴びた。話を通じたのだ。▼そしてこの十二月、科学的社会主義の理論問題で日本共産党と中国共産党の会談が実現。実り多き感無量の二〇〇五年である。（松）

## 野良望

いよいよ新年号から新デザインで登場。えう、ご期待！みなさんからのご意見をお願いいたします。


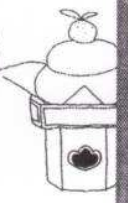
## あきる野民報

No.430 2005年12月25日/発行  
日本共産党あきる野市委員会  
発行責任者/松平重幸 Ⅸ&Ⅸ 558-0718

## 新春の集い

文化界 佐藤真子ソプラノを唄う  
講演 憲法9条の話 鈴木 剛弁護士  
(九条と平和を語る青年弁護士)

■と き 11月15日(日)午後1時30分  
■と ころ 11まほろばホール(全日市交流センター)  
共催 日本共産党あきる野市委員会・同後援会

# 民報編集委員会が選んだ今年の10大ニュース。

読者の皆さんも  
考えて  
みませんか？

？の中に順位の番号を  
入れてみて下さい。

市議会選挙で  
共産党の三候補が  
高位で当選。

戦争への道許さず、  
「あきる野市9条の  
会」発足、活発に活動。

市教育委員会  
歴史曲げる「つくる  
会」の教科書不採択。

自然の宝庫、  
五日市「横沢入り」  
東京都が里山指定。

「あきる野民報」  
新しい地域新聞を  
目指し紙面刷新。

温泉建設の再考求め  
日本共産党市委員会  
市長と会見。

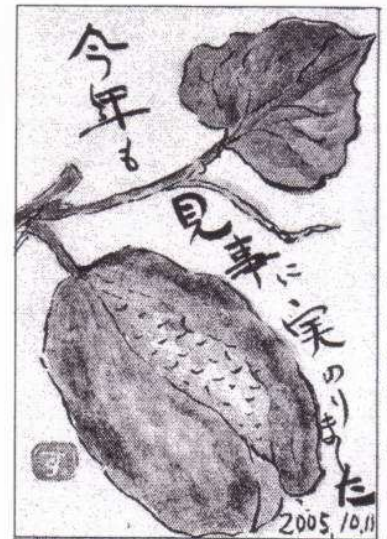
「温泉問題を考える  
会」が市民生活守る  
ためにと活躍。

市が災害時避難所の  
耐震化放置のまま  
温泉建設強行。

市民による「合併十  
年記念シンポ」開く。  
全国から参加。

五日市商店会の  
町おこし「夜市」、  
二万四千人の賑わい。

ここはあなたが  
書き加えてみてはいかが？



絵手紙 瀬戸岡中村スエさん

本年最後のお笑いを一席＝「借金に首まで浸かる温泉で、癒しどころかイライラがいや増す」

## 歴史探訪

第10回

## 鎌倉街道(1)

一旦急を要する際に「いざ鎌倉」とか「すわ鎌倉」といった言葉が残っていますが、鎌倉時代、特に関東地方を重要な基盤として統治するため鎌倉を起点として四方に街道が整備されました。主に戦を中心とした事態に、地方の豪族や武将が鎌倉に向って馳せ参じるための交通網として鎌倉街道が出来ました。

鎌倉幕府開設以来、各地から鎌倉へ向う中世古道を総称して云われていて、「鎌倉古街道」「鎌倉古海道」とも文献には記されています。重要な路線として京都―鎌倉の往還道が知られていますが、概ねいまの東海道と考えるとよいでしょう。一般的に、(1)鎌倉―藤沢を北上、関戸で多摩川を渡り府中に至る「上ノ道」、(2)北鎌倉―戸塚を経て北上し本町田へ出る「中ノ道」、(3)北鎌倉―保土ヶ谷を経て鶴見へ出る「下ノ道」、これらの三路線指して鎌倉街道と呼んでいます。近在では、東村山から所沢へ向う現在の府中街道に沿って寸断された鎌倉街道が、当時の面影をよく残していると云われて居ます。三路線はそれぞれ上野・下野・信濃・下総・上総へと関東周辺へ広がります。

これら主幹道としての鎌倉街道の外、間道として発達した鎌倉街道があきる野市内に数カ所見ることが出来ます。(次号に続く)

草花 木崎秀治



鎌倉街道(草花 折立地蔵)

## 俳句

暮るる日に毛虫の急ぎ秋の道 (来史)

秋寒き風やふと膨らませ (芳子)

芒野に黒のスバツツ娘の駆くる (ナナ子)

冬鶯鳥の乙女の黄八丈 (香浩)

露の道野牡丹の紺深まりぬ (勝代)

少年の面影見せて七五三 (歴代)

渚ゆく秋の夕日を浴びながら (かほる)